



晴天に恵まれた4月8日、広島県立熊野高等学校「第26回 入学式」が厳かに挙行されました。

新入生の生徒たちは少し緊張した顔つきではありましたが、力強く入場し、校長先生の式辞や来賓の方々の祝辞を一生懸命聞いておりました。

多くの来賓の方々・教職員の見守る中、新入生代表の挨拶を堂々とした態度で、立派

ふるさと
筆都が育てる、
ふるさと
筆都を育てる

熊野高等学校



につとめてくれたのは池田勇樹君です。

また昨年に引き続き今年度も、熊野高校卒業生である時村好恵さん、道垣内稚子さんによる「琴の演奏」が入学式に花を添えていただきました。

曲の中には熊野町出身の有名作曲家「坊田かずま」さんが作られた「くれがた」もあり、新入生は「琴」の音色に感動

今年度も「クラブ活動、熱いシリーズ」を予定しておりますので、どうぞご期待ください。



熊野高校の校訓 ▲
「勤労」「誠実」「友愛」



し、聞き入っていました。

くまの俳壇

熊野俳句同好会

【熊野婦人俳句会】

木の芽風髪を短く妻戻る
春蘭の雨をふくみて咲きにけり
紅梅のよく咲いてをり一日留守
春の道上着振りふり帰る子等
朝の日にはやばや雛納めをり
なつかしき恩師の句碑に笛子鳴く
梅の咲き孫二人目も男子なり
貝の砂椀に残るや夕霞
立春の言葉に何かゆるみがち
春光に白寿の樞送りけり

工藤 義夫
久保田 フクヨ
大田 文子
上野 啓子
阪本 清子
立花 よしえ
堀野 眞理子
亀谷 しず恵
山崎 貞子
隠土 信子

【西公民館俳句グループ】

寒月光荒るる蓮田の泥乾く
金山のトロッコ列車日脚伸ぶ
畦を焼くバケツに水を満しけり
山里の水増す流れ春立ちぬ
命綱垂らす庭師の冬帽子
枯菊を焚いて匂へる割烹着
曲り屋の板戸のきしみいろり燃ゆ
話しかけながら古雛かざりけり
春の雪犬の背中に溶けにけり
石垣の黄梅こぼるひなた道
かたちなく廃舟崩れ冬終る

西村 柳子
別府 藤絵
渡辺 文
高橋 喜美子
長山 法江
尺田 せつ
荒谷 逸子
関村 光子
南村 マサ子
進藤 聿美
木村 里風子